

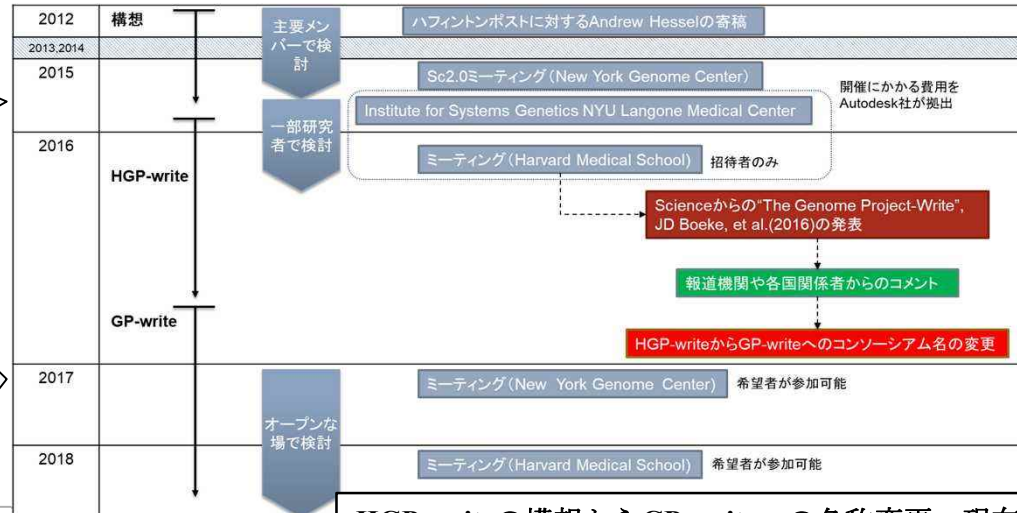
# 「海外動向」初動調査 概要

- 初動調査として、ゲノム関連技術に関する世界各国の状況を調査した。
  - 米国に関しては、ゲノム合成に関する国際コンソーシアムであるGP-writeと、GP-writeに繋がる一連の研究の流れとして、ヒトゲノム計画、Synberc、iGEM、J. Craig Venter Institute (JCVI)、Sc2.0について調査した。
  - 欧州やアジア等に関しては、各国の概況を調査した。

	概要
ヒトゲノム計画	ヒトゲノムを解読する国際コンソーシアム。2003年に完全版の配列決定結果を発表。参加各国が染色体領域を分担して解読を進めた。遺伝情報を適切に利用する目的からELSI研究プログラムが組み込まれた。
Synberc	合成生物学に関わる基礎的な理解を深めるための研究と技術開発を行うことを目的として発足。責任のある研究・開発を行うために、Synbercの全ての研究者およびパートナー（高校生、産業界、政府）が協力してELSIに取り組むこととしている。
iGEM	合成生物学に関わる教育と競争、合成生物学の進歩、オープンなコミュニティと協力の発展を目指す独立した非営利団体。参加チームの活動に対して、Human Practicesの観点から賞を与え、自分達の仕事の内容・目的・社会に対する影響を積極的に考えさせることも行っている。
JCVI	多様な人材を擁し、主にゲノム・バイオインフォマティクスに関する学際的な研究に取り組んでいる。
Sc2.0	<i>Saccharomyces cerevisiae</i> のゲノムを全合成することを目的とする国際コンソーシアム。倫理とガバナンスに対する声明として“Sc2.0 Statement of Ethics and Governance”と題する文章を公表している。
GP-write	ゲノム合成による生命に対する理解の深化と技術開発を目的とする国際コンソーシアム。当初は、ヒトを対象とすることを前面に押し出し、“Human Genome Project-write (HGP-write)”というコンソーシアム名としていたが、最終的には、Humanを取り、GP-writeとなった。

有識者によれば、GP-writeはGP-readと補完的な位置付けにあり、加えてゲノム合成技術を開発することで応用を推進することも目的として設定されているとのことであった。

実際に騒動の渦中にいた有識者によれば、プロジェクトの中心的研究者の中にもプロジェクト名をHGP-writeとしない者もあり、そもそも、ヒトだけでなく他の様々な生物種のゲノムも合成しそれらと比較する必要があると考えている者もいたとのことであり、変更はプロジェクトの本質に関わるものではなかったという見方もある。プロジェクト名の変更とともに、HGP-writeは様々な生物種を対象とするGP-writeのサブセットという位置付けに再定義されている。



本資料は、国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センターからの委託により、株式会社三菱総合研究所が調査を行った結果をまとめたものです。

本資料においては、調査によって得られた情報に関して考察を加えていますが、あくまで限定された視点に基づく一考察であり、必ずしも国立研究開発法人科学技術振興機構、社会技術研究開発センターおよび委託先の公式見解を示すものではありません。

また、本資料の掲載情報を利用して受けた一切の損害について、国立研究開発法人科学技術振興機構、社会技術研究開発センターおよび委託先は何ら責任を負うものではありません。